

パソコンゲーム作り 歓声

本社でプログラミングフェス

小中生160人魅力体感



プログラミングを学ぶ小中学生たち＝30日、福井新聞社・風の森ホール

コンピューターのプログラミングを楽しく学ぶ県小中学生プログラミング・フェス2017(福井新聞社主催、PCN共催、県教委後援、北陸電力特別協賛)は30日、福井新聞社・風の森ホールで開かれた。子どもたちは専用のパソコンを使ってゲームのプログラムを入力。実際に遊んで面白さを体感していた。

2020年度から小学校で必修化されるプログラミング教育に興味を持ってもらおうと昨年に続き企画。講師は福井市のソフトウェア制作会社社長、松田優一さん(40)ら。PCN(プログラミング・クラブ・ネットワーク)のメンバーらが務めた。初心者と経験者の2コースにそれぞれ約80人が参加した。

初級コースでは、参加者は発光ダイオード(LED)電球を点滅させる命令文をパソコンに打ち込んで動作を確認。初級コースでは、参加者を体験した。川下りに見立てて障害物を避けるゲームでは、命令文の数値を変えると動作スピードが目が付いていかないうらいまで速くなり、「すごい」などと歓声を上げていた。

武生二中2年の山崎浩和さんは「ゲームの速度や難易度を簡単に変えられるのが面白かった。自分でゲームのプログラミングを試してみたくなった」と話していた。(石井敬夫)